

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 「投球制限論議に思う」

今夏の暑さには大概の人が音を上げたことでしょう。熱中症で死者が出たニュースが日常茶飯事になっても連日炎天下で屋外競技をさせられるのは地区予選から勝ち上がってきた高校球児しかいません。

私はこどもの頃から暑さが苦手でした。夏休みの野球大会ではピッチャーとして投げるのですが3回を過ぎたころから体力負けして気持ちが悪くなるのです。その記憶が強く残っていて、もし自分が甲子園のマウンドに立っていても、その時エースであろうが決勝戦であろうが「こんな暑い中で投げたくありません。」と監督を困らせたかもしれないのです。

そんな考え方が「根性なし」と切り捨てられるどころか、恐る恐るも肯定的に話が出る時代になったと感じます。超高校級と評判の投手を甲子園出場のかかった県予選決勝戦で登板させなかった先生監督に対し、外野席の反応は様々です。

この登板回避騒動を見ていると、近い将来、監督であっても選手であっても、肩肘の負担の問題以前に「8月の真っ昼間に野球なんかしても全く楽しくないです。」とメディアに言い放って物議を醸す関係者が出てくる予感がするのです。

酷暑、猛暑、熱波が健康を害する危険な状態をもたらそうが、高校球児に死者が出るまで慣例を変える大人は出てこないでしょう。エアコンの利いた部屋でテレビ観戦をしている高校野球ファンはせめてエアコンを切って応援するくらいでない選手達に失礼だと思ふのです。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎